

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
65	杏林大学	財務会計論	内藤 高雄 総合政策学部 教授	2	春	金	15	14:40～16:10	杏林大学 井の頭キャンパス	1～2

【到達目標】

本講義は会計の認識・測定・報告における判断の基準について、伝統的な会計理論、新しい会計理論、さらには理論に基づいた現行のわが国および諸外国の制度を理解することを到達目標としている。

*学位授与の方針との関連:この科目は総合政策学部が学位授与の方針において定めている卒業時点までに獲得すべき能力のうち、(6)学際性の軸となる専門的な知識を養うことを目的としている。

【授業の概要】

財務会計は企業の取引を貨幣金額をもって継続的に記録計算し、その結果を財務諸表という形式で株主や債権者等の、企業の外部の利害関係者に報告する体系である。本講義ではまず会計の処理手続を進める前提となる判断の基盤である、企業会計の理論的基盤を明らかにし、次いで企業会計の最終局面である会計報告について検討する。

【授業内容】

第1回:企業会計と会計学:会計の中心課題、財産法と損益法、会計と簿記、財務会計と管理会計、会計学と隣接諸学を学ぶ。[講義・質疑応答]

第2回:制度会計と会計原則:わが国会計制度の構造、トライアングル体制、会計原則の形成と内容を学ぶ。[講義・質疑応答]

第3回:会計公準と一般原則:会計公準の意義、史の変遷、現行会計における5つの会計公準の内容、:真実性の原則を中核とした、企業会計制度の支柱である8つの一般原則について学ぶ。[講義・質疑応答]

第4回:収益の認識と測定:収益の概念、発生主義会計と現金主義会計、実現主義の原則、経常損益計算と特別損益計算を学ぶ。[講義・質疑応答]

第5回:費用の認識と測定:費用の取得原価、時価主義会計と取得原価主義会計、費用収益対応の原則を学ぶ。[講義・質疑応答]

第6回:棚卸資産会計:棚卸資産の費用化・測定、個別法と誘導原価法、低価基準を学ぶ。[講義・質疑応答]

第7回:有形固定資産会計:有形固定資産の費用化、減価償却の理論と諸方法を学ぶ。[講義・質疑応答]

第8回:無形固定資産会計・繰延資産会計:無形固定資産の概念と費用化、繰延資産の概念と費用化を学ぶ。[講義・質疑応答]

*課題に対するフィードバックの方法:毎回授業の初めに前回の課題についてフィードバックを行う。

第9回:前半まとめ・中間確認テスト:これまでの範囲をまとめ、確認テストを行う。[小テスト・講評]

第10回:財務諸表①:主たる財務諸表である損益計算書と貸借対照表、キャッシュフロー計算書等について、その形式と内容について学ぶ。[講義・質疑応答]

第11回:財務諸表②:財務諸表を中心に有価証券報告書について、実際にパソコンで各社のデータを検索しながら学ぶ演習]

第12回:金融資産会計・有価証券会計:金銭債権の費用化、有価証券の定義と分類、有価証券の費用化を学ぶ。[講義・質疑応答]

第13回:負債会計:負債の定義・本質と分類、引当金の概念、各種の引当金の内容について学ぶ[講義・質疑応答]

第14回:資本会計:資本の本質、純資産の概念とその分類、構成要素について学ぶ。[講義・質疑応答]

第15回:個別財務諸表から連結財務諸表へ:現在、会計報告の中心となっている企業集団の報告書である連結財務諸表について学ぶ。[講義・質疑応答]

【成績評価方法】

中間確認テスト+定期試験の成績70%、平常点30%で評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書、教材等】

・佐藤 信彦編著『スタンダードテキスト財務会計論 I (第9版)―基本論点編』(中央経済社) ¥5,616

・神戸大学会計研究室編『会計学基礎論(第五版補訂版)』(同文館出版) ¥3,780

・新田 忠誓他著『会計学・簿記入門 第13版』(白桃書房) ¥3,024

他の参考文献については、講義中に指示する。

※ この授業は、4/10(金)が初回です。